

# 足立 革新懇

## 第 40 号

2025 年 8 月 1 日（月）

連絡先：足立区労連

TEL：3887-8140

### 3つの共同目標

- ①日本の経済を国民本位に転換し、暮らしが豊かになる日本をめざします。
- ②日本国憲法を生かし、自由と人権、民主主義が発展する日本をめざします。
- ③日米安保条約をなくし、非核・非同盟・中立の平和な日本をめざします。

平和・民主主義・暮らしを守る一区内各地で広がる共同の取り組み

## 被爆80年

## 足立平和行進2000人の参加で 核兵器廃絶の決意

11兆円の軍事費を、物価高騰で苦しむ国民のくらし、福祉、教育に

参議院選挙では、外国人などへの差別を声高に主張する排外主義・極右勢力や、世代間分断をおおる勢力が議席を伸長し、改選勢力が3分の2以上の議席を得ました。そして、「核武装は一番安上がり…」などと主張する政党が多くの議席を得た中で、足立では7月25日に「2025国民平和大行進&アピール行動」が行なわれ2000人が参加。千住中居町公園から北千住駅まで元気に「核兵器なくそう」「平和が一番」とリズムカルで明るい「ピースコール」が商店街に響きました。

行進後のアピール行動は北千住西口デッキで行われ、「核兵器禁止条約に署名・批准を」の署名が9筆寄せられました。

### 開会あいさつ

実行委員長の大滝慶司さん（区労連議長）が、「今年の原水爆禁止世界大会は、被爆80年、日本被団協がノーベル平和賞受賞後初めての世界大会とな

ります。核兵器禁止条約は、現在、署名国94カ国、批准国73カ国に広がっています。朝日新聞の世論調査では、73%が日本の核兵器禁止条約へ参加を望むと回答、核兵器禁止条約への参加を求める地方議会の意見書採択は726自治体と、全自治体の4割を超えています。

一日、被団協・原水協・原水禁の3団体が初めて共同アピールを発表し、『核使用の危機が高まる今日、あらゆる立場の違いをこえて日本政府に核兵器禁止条約への参加を求める国民的運動を全国で繰り広げよう』と呼びかけました。核兵器の禁止・廃絶を求める世論と運動は世界でも日本国内でも着実に前進しています」と開会あいさつを行いました。

### 核兵器禁止条約に参加 加する日本政府を

平和のうたが広がる中、足立区原爆被害者の会の山下和宏会長は、被爆者の高齢化を懸

念し、「若い世代にこれからも伝えていきたい」と訴えました。北千住法律事務所の柿沼真利弁護士は「核抑止論では、どんな小さな国も核兵器を持たなければ成立しない。非現実的で、核兵器現存国による強者の勝手な理論だ」と強調。足立区職労は「二度と赤紙を配らない」、足教組は「二度と教え子を戦場に送らない」、東京土建足立支部は「職人の技術は暮らしと平和のために」と、平和の活動を報告しました。

原水禁大会に参加する大学生は、「まわりの友人が自衛隊への応募を検討している。学費の負担が重くて生活のため

に働きたいからだ」「戦争の気配が濃くなったと感じる。軍事より教育や暮らしに予算を。」

原水禁大会で多くを学んできました」と決意を述べました。

区労連常任幹事

中川 ゆい子



# 「先生がいらない！崩壊する日本の公教育」 求められる「給特法」改正

今回の「区労連幹事会学習会」(7/1)の演題は「先生がいらない！崩壊する日本の公教育」。講師を東京総合教育センター所長の児玉洋介さんにお願

いしました。

児玉さんは「教員の働き方は、長時間労働や人手不足といった問題が深刻化し、社会的な議論のテーマの一つになっている」と指摘。「給特法」改正(6/11)に触れつつ、お話を進められました。

1971年、公立学校の教員の給与は、勤務時間の線引きが難しいとして、残業代の代わりに一律で月給の4%が上乗せされ支給されるようになりました。改正法は、処遇改善に向け、上乗せ分を来年から毎年1%ずつ引き上げ、6年後には月給の10%にすることしました。

他、教育委員会に対しては、教員の業務量を管理する計画・実施状況の公表を義務づける。「主務教諭」新設。4年後までに、教員の時間外勤務を、月平均で30時間程度に削減する目標などの付則を盛り込みました。

しかし、児玉さんは「長時間過密労働の解消につながらないし、子どもの教育条件(学校の困難)の改善を遠ざける、根本

解決とは無縁の改正法だ」と話されました。

足立区の「超過勤務時間調査」(令和5年度)では、過労死ラインの月80時間を超えている教員は66名、100時間を超える教員は22名にも上っています。教職員を増員しなければ、残業月30時間は実現できません

## 世代間の分断ではなく 誰もが安心できる 年金制度をめざして



私たち年金者組合は、若い人も、高齢者も、誰もが安心して暮らせる年金制度の改善を、国や自治体に求めています。それは、憲法に示されている「基本的人権」「健康で文化的な生活をする権利」を国や、政治が保障すべきだと思っております。

先の通常国会では「年金制度改革関連法案」を自民、公明、立憲民主などが可決・成立しま

ん。

長時間過密労働の実態を広く区民の皆さんに知らせ、教員の働き方改革を地域の運動として進める必要があると感じました。教職員的大幅増員や残業代支給の仕組みをつくる給特法改正を求める世論を広げていきたいと思っています。

「教員の働き方改革は、子どもの教育条件の改善と一体のもの」―児玉さんの講演のまとめとされた言葉です。

足立区労働組合総連合  
事務局長 河端 徳昌

た、年金制度に不安を持っている現役世代から希望を奪うものです。

女性の低年金は深刻です。老齢年金が、10万円以下173.8万人(女性の83・71%)、その内、5万円以下が42.9万人(同23・7%)という状況です。

公的年金の積立金は304兆円もあります。積立金を活用すれば、年金引き上げや医療、福祉、教育の充実が十分できます。これは、国の政治の責任です。その責任を取らせるには、私たちがあきらめないで、声を上げ続けることが大切です。

参議院選挙でも自民・公明与党は過半数割れました。一人区での野党統一候補の勝利など、希望も生まれています。一方、高齢者と現役世代を分断し、ジェンダー平等を否定し、外国人差別を主張するなど、嘘、事実でない声があふれ、極右政党が伸びたという危険な動きもあります。

私たちは、分断や対立ではなく、誰もが安心できる年金制度の実現をめざして、共同の輪を大きく広げていきたいと思えます。

足立年金者組合 辻内 健志



2025年 第70回 in東京

# 日本母親大会

いのち 生命を生みだす母親は 生命を育て 生命を守ることをのぞみます



【いのちの想は遠くまで】 ありはるかに

**第1日 分科会** 形式：現地参加・1部オンライン併用  
**9月28日(日)** 13時～16時  
 会場 日本教育会館／全国教育文化会館・エデュカス東京  
 「子どもと教育」「くらし、権利、労働」「平和と民主主義」、「ジェンダー平等社会の実現」など、さまざまな問題をテーマ別に話し合います。

**第2日 全体会** 形式：現地参加・オンライン併用  
 (限定ユーチューブ 21:00まで)  
**9月29日(月)** 12時30分～15時30分  
 会場 東京国際フォーラム・ホールA  
 記念講演 **戦後80年と不戦の決意**  
**—日本とアジアを再び戦争にしないために—**  
 講師 布施祐仁さん(フリージャーナリスト)  
 文化行事・運動交流(東京・全国)エールの交歓など多彩な催しがあります。

両日とも物産展、母親売店・書籍バザールを計画しています  
 ＊協力会員券：2日間共通券 3300円 1日券1800円 申し込みは、各県母親大会実行委員会へ

## 第70回日本母親大会にご参加を

### 日程

9月28日(日) 分科会  
 日本教育会館・エデュカス東京  
 29日(月) 全体会  
 東京国際フォーラム・ホールA

1954年3月、ビキニ環礁でのアメリカの水爆実験に抗議した杉並のお母さんたちの運動の発展を受けて誕生した母親大会です。毎年全国を巡って大会を開催しています。

今年は節目の第70回大会です。会場は東京です。ぜひご参加ください。全体会は残念ながら

ら月曜開催となりましたが、有楽町にある国際フォーラムです。北千住から電車一本で行けますよ。前進座の文化行事が楽しいめ、記念講演は「戦後80年と不戦の決意」日本とアジアを再び戦場にしないために」と題する布施祐仁さん。

トランプ大統領の自分勝手な

発言、ハマスを殲滅するまで戦闘は止めないと宣言するメタニヤフ首相、ウクライナはロシアと主張するプーチン大統領：いま世界では紛争が絶えず、自国主義を強調する危険な動きでいっぱいです。

こんな時期だからこそ憲法9条を持つ私たちはどう行動すべきか。しっかり学び、全国の仲間と交流しましょう。

足立母親大会連絡会

八巻 暁美

被爆80年

祝 被団協ノーベル平和賞受賞

### 広島の高校生が描いた「原爆の絵」展

8月6日(水)～19日(火)

10:00～16:00

(初日は11:00～/18日休館)

Lソフィア1階ラウンジ



主催：新日本婦人の会足立支部

### 夏の平和の取り組みinあだち

#### ①第38回足立平和のための戦争展

● 8月23日 13時15分 足教組

原水禁世界大会の報告、被爆体験の証言、朗読・平和の詩

● 8月24日 10時 足教組

平和の絵本の読み語り、平和の歌声、軍隊のない国コスタリカのお話

#### ②2025年原水爆禁止世界大会長崎集会の報告会

● 9月15日 13時 西新井センター  
 2階(西新井大師駅改札前)

## 青年コーナー

# ポステイング、対話で奮闘！ 参政党、保守党など 右翼勢力に対抗できる力を！



12年に1度となる都議選・参院選の連続選挙では、民青同盟では斉藤まりこ都議候補、吉良よし子参院議員候補をそれぞれ支持し、青年後援会としてもた

たかいました。

ビラ撒きやポステイング、後援会員への電話かけに加え、特に宣伝では今年の寒い段階から斉藤まりこサポーターズの皆さ

んと共に合同宣伝を行ったり、独自で大学門前宣伝に取り組みました。支持拡大では前回到達の10倍近い数を達成することが出来ました。これには、民青足

立地区の染谷地区委員長や渡辺副委員長などの常任が中心的に奮闘したことは間違いないのですが、前回と大きく異なるのは主体が4年前に比べて多かつたとも言えると思います。

ある地域班では班長が「プロジェクションマッピングや巨大噴水にお金をかけるくらいなら都民の生活に向けた公共事業にお金をかけてほしい」「都議選をきっかけに小池都政を終わりにさせましょう」と呼びかけ、

班役員が立ち上がり、演説に参加する以外にポステイングや電話かけなどでの奮闘ぶりが見られました。

また、今回の選挙を通じて、学業や仕事が多忙だった同盟員と久しぶりにつながり、電話かけでは「都議選があることは知っていたがまだ投票に行っていない」「誰に入ればいいのかまだ分からない」などの反応があったので、こちらからも伝えると賛同、支持をしてもらえる経験が複数ありました。また、久しぶりに班会に参加してくれた班員もいました。

参加した班員からは「吉良さんの演説を初めて聞いた。将来のことやジェンダー平等など日本のことをシッカリ考えているということが良く分かった」「参政党が厄介。保守党も極右。そうした勢力に共産党に対抗して欲しい」と思っている「など選挙情勢について交流が行われました。

足立地区では、最終的に今回の選挙で2つの民青班で支持決議が挙がりました。若者の組織面の前進は、これからの激動の情勢において大事な財産になることと確信しています。

民青同盟足立地区

副委員長 小林 太朗

## コスタリカに行ってきました

### その2

九条の会足立連絡会事務局

大谷 猛夫



火の鳥のモデルにもなった、世界一美しい鳥といわれるケツァル

この国の憲法ですごくいいところは、国会議員の任期は4年で、再選は禁止ということです。同じ人は2度と国会議員になれません。また、この国は大統領制ですが、大統領も再選できません。4年経ったら、国会議員も大統領も変わります。権力者

をつくらない、ということが徹底されています。

人口550万人の国で国会は一院制で定数は57人です。議員は4年で交代しますが、政党はありません。国民も選挙の投票は個人に投票するのではなく、政党に投票します。こうすれば個人に権力が集中することはありません。また、国会議員の男女比率もほぼ半々です。政党は候補者名簿のクォーター制を採用し、男女半数になるように工夫しています。現在、男性29名、女性28名だそう。現在「軍隊をつくる」という政党

はありません（ここが日本と違うところです）。し、そんなことを主張したら、一票もはいらないだろう、と国民みなが思っています。

国会議員をやめたあとは一市民となり、さまざまな活動をおこなっていくのです。今この国は自然保護に力をいれていて、自然保護区を守る仕事についている人が多くいます。エコツアーもさかんで、世界一美しい鳥といわれるケツァルやハチドリ、なまけものなどの貴重な動物の保護に力をいれています。人間と動物がともに生きていく、という実感もあるのです。

（おわり）

